

英語教育推進事業
教育課程特例校における特別の教育課程
【実施状況報告】

令和3年7月

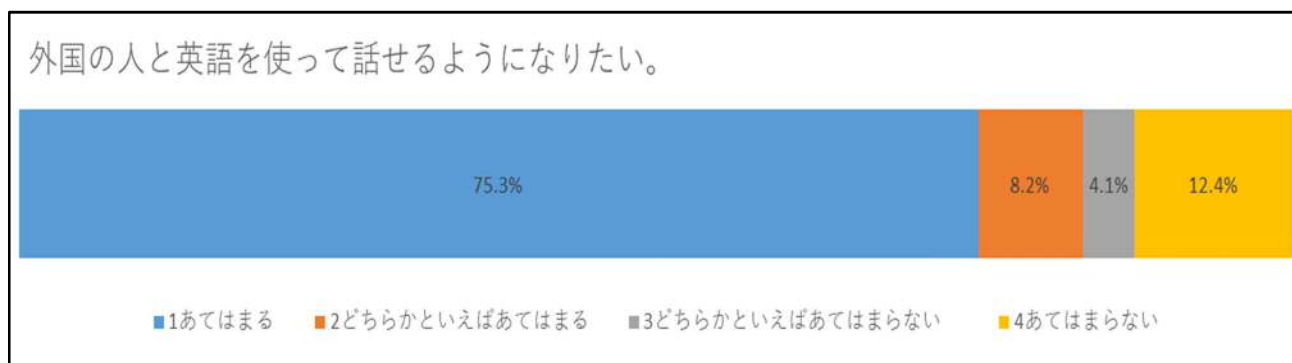
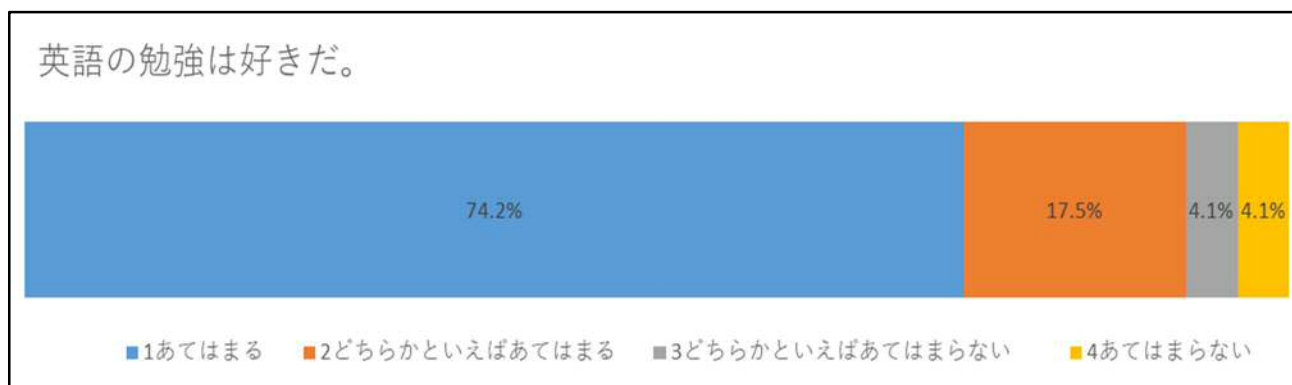
池田市教育委員会

1. 概要

- 池田市では、平成 27 年度より、市内の全小学校・義務教育学校にて教育課程特例校として、小学校第 1・2 学年に「英語活動」を設置する特別の教育課程を編成しています。低学年では主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、挨拶や動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。中学年からの外国語活動、中学校の英語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。
- 平成 29 年度から小学校 6 年、中 1、中 2 の 3 学年を対象に、英語活用能力調査 (GTEC) を実施しています。GTEC とは、英語の 4 技能 (聞く・話す・読む・書く) を測定する外部試験です。令和 2 年度は、中 1 は実施しませんでした。小 6、中 1 は、4 つの技能を全てタブレットで測定します。中 2 は、3 技能は筆記、「話す」技能は、タブレットにて測定します。GTEC を通して、子どもたちの英語力を測定し、取り組みの成果や課題をとらえ、授業改善に取り組んでいます。

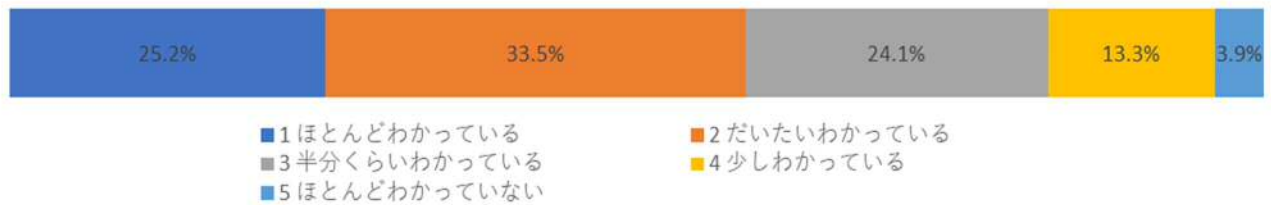
2. 池田市の児童・生徒アンケート結果

【小学校 1 年生・小学校 2 年生対象 (教育特例校)】



【小学校6年生(GTEC)】

英語の授業や活動の内容をどのくらい理解していますか？



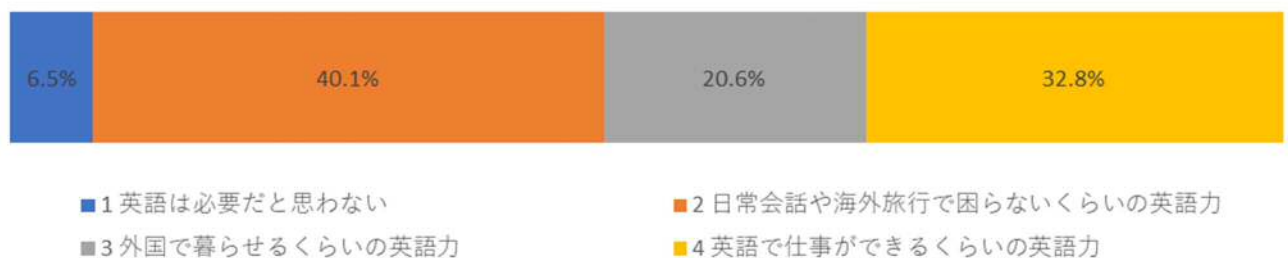
英語の授業や活動の時間は楽しいですか？



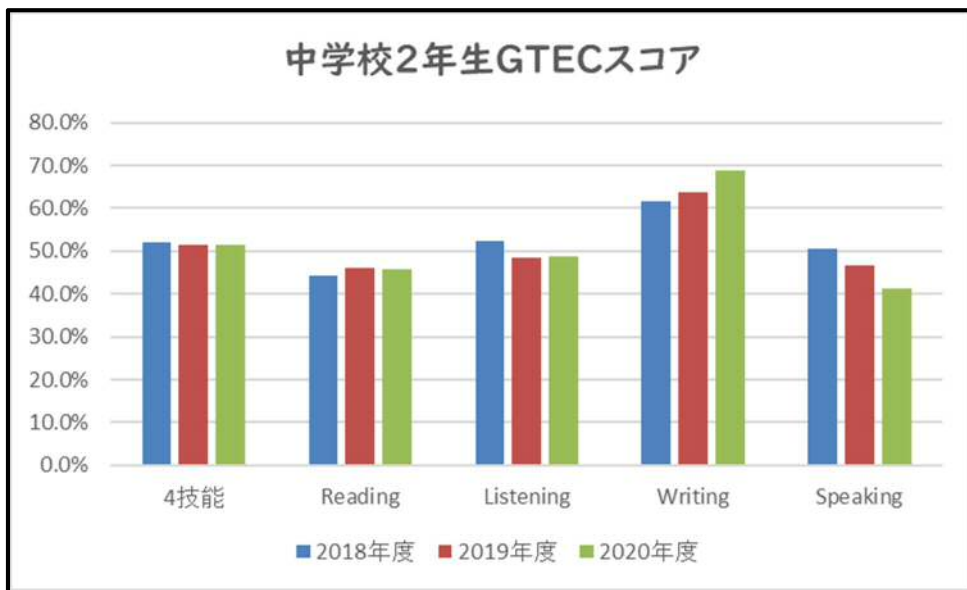
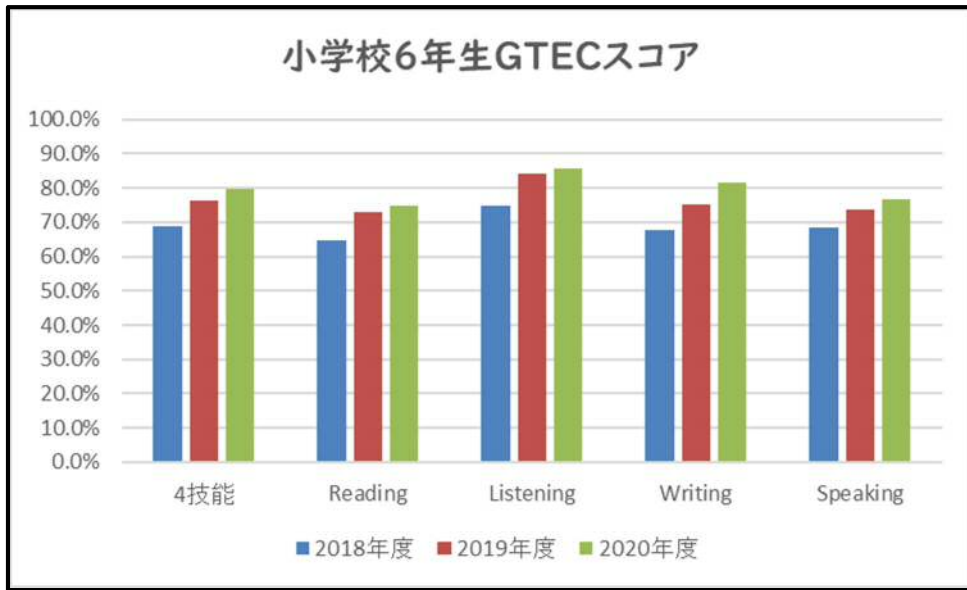
あなたは英語が好きですか？



あなたは将来、どれくらいの英語力を身につけたいですか？



3. 池田市の GTEC スコア (小学校6年生・中学校2年生)



4. アンケート等の結果より

GTECの受検を始めて、4年になるが、4年連続トータルスコアが増加しており、小学校では英語力の向上が図られている。特に、listening において成果が見られる。小学校低学年では、楽しみながら英語を聞く場面を多く設定することで、英語の音声に慣れ親しむことができてきた。また早期から英語の授業を始めることにより、児童の英語の発音も年々きれいになっている。しかし、アンケートの結果にもあるように、「英語の授業が楽しくない」と感じている児童も一定数いるのも事実である。今後も児童の発達段階に応じた英語の授業の積み重ね、また、子どもたちが楽しいと思える授業づくりに取り組んでいく。

5. 英語担当教員アンケート(小学校1・2年生の英語活動について)

- ・新学習指導要領が始まり3、4年では英語活動、5、6年では英語として教育課程に位置付けられ、1、2年生で教える内容を見直していく必要がある。
- ・小学校1・2年生では、英語のテキストがないため、学級担任と一緒に指導内容をしっかりと考えて、計画を立てる必要がある。
- ・小学校1・2年生で繰り返し「Do you like〜?」などの表現を使うことで、3・4年生でも抵抗がなく、授業を進められる。低学年では、楽しんでゲームや歌などのアクティビティを中心に行っているため、「英語が楽しい」という気持ちで、子どもたちが取り組むことができている。
- ・楽しい活動を中心に行い、子どもたちがだんだんと英語を好きになっている。低学年のうちに、もっと英語に触れてもらいたい。
- ・歌をふんだんに使い、体や指を動かす活動も多く取り入れ、「できる・わかる」授業をこころがけている。児童の個人差をどのように埋めるかが課題。
- ・簡単なあいさつや気持ち、物の名前などを通して楽しく英語に触れている。はずかしがらずに体全体で表現したり、発表したりする姿は、低学年らしくとてもよい。
- ・昨年度より5年から英語が教科になり、保護者から「1、2年生のうちから英会話教室や英語塾などに通わさなくて大丈夫か」との声をよく聞くようになった。保護者や子どもに不安を抱かせないように、楽しい授業づくりを心がけていきたい。

6. 保護者・学校関係者等の評価(GTEC・特例校制度について)

- ・小さいうちから英語に触れられるのは良いこと。継続しないと意味がなくなるのでぜひ、継続して欲しい。
- ・GTEC等を利用することで、受験に有利に働くようにできればよりよい。
- ・英語の試験を受けて大学に入学してくるが、最後はやっぱり文法力。基本的な文法を押さえて欲しいということがうちの大学でいつも言われる課題。
- ・簡単な文法が分かっていないまま高校や大学に入学してくる生徒、学生が増えていると聞いている。話すことも大切ではあるが、まずは基礎基本をしっかり定着させてほしい。
- ・外部英語検定「GTEC」の実施をすることで、児童・生徒の英語力を把握し、その結果を授業改善に活かすことができおり、効果的な事業である。

7. 今後に向けて

- ・外部英語検定「GTEC」の分析から見えた課題をもとに、さらに授業の中でその課題を改善するための手だてを考えていくことが求められる。
- ・中学校3年生時点でのゴールを見据えた小学校1年生からのカリキュラムを再度見直していきたい。